

月刊 やちまなこ

2025. 9.15 発行

No.334

9月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



エゾベニヒツジグサ [*Nymphaea tetragona* var. *erythrostigmatica*]

猛暑に揺れた夏が終わり、ようやく季節は落ち着きを取り戻しはじめました。空には高く澄んだ雲が浮かび、朝夕の風はひんやりとした気配を運んでくれます。釧路湿原に目を向ければ、夏の名残りとどめつつも、静かな水面には白い花が可憐に咲いています。

エゾベニヒツジグサ——北国の短い夏を知り、澄んだ水鏡にそっと花卉をひらくその姿は、移ろいゆく季節のはざままでひとときわ清らかに映ります。盛夏の疲れを癒すように、純白の花は私たちの心に涼やかな安らぎを届けてくれることでしょう。今月の表紙には、その静謐な美しさを選びました。



塘路フィールドノート【8/15～9/14】

【野鳥・哺乳類】

猛暑の関係か採鳥には苦戦を強いられた夏でした。これから秋が近づくにつれて、冬鳥が徐々に姿を現し、それに反して、夏の鳥が釧路湿原を旅立つ季節となります。エゾリスは豊穣の季節。



エゾライチョウ♂（塘路原野）

「焼野の雉夜の鶴」の言葉通り、幼鳥を守るために擬傷行動をとる。写真は真っ先に樹上に逃げた雄。キジ科



タンチョウ（釧路湿原）

31歳雌の仲睦まじい老夫婦。昨年は幼鳥1羽を育てたが、今年は小休止のようです。ツル科



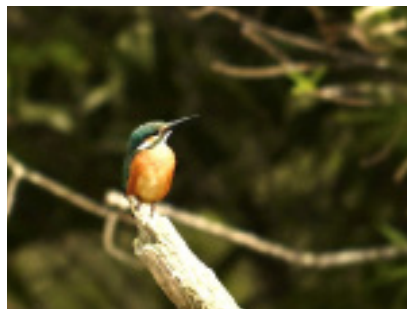
オシドリ（達古武湖）

この時期はエクリプスを多く見掛ける。その雌雄判別は嘴がピンクの個体がオス。カモ科



ミサゴ（釧路川）

英名 Osprey が米軍機 V-22 の愛称となったことで有名。魚を縦に掴むことができる。ミサゴ科



カワセミ（釧路川）

川岸に突き出た枝で一休み。魚捕りが上手なことから英名はコモン・キングフィッシャー。カワセミ科



エゾリス（塘路湖畔）

クルミが豊作で頻繁に出くわす季節。カラスのように車道に実を置く個体もいる。リス科

【植物・菌類】

今年は暑さの影響か、花の咲きがいま一つと感じました。観察会でも花の話ができなくて結構困った夏でした。秋が近づき、夏のキノコももう終わりかけ。そろそろラクヨウが森を賑やかにしてくれる頃です。



エゾベニヒツジグサ (蝦夷紅末草)
羊の刻に咲き 15 時半頃には花を閉じるようです。花言葉「純粋な心」スイレン科



ヒシ (菱)
白い可憐な花を咲かせる。イトトンボの羽化床としても活用される。ミソハギ科



エゾミソハギ (蝦夷襖萩)
この時期は湖畔に濃いピンク色の花が彩りを添える。花言葉「忍耐」ミソハギ科



エゾトリカブト (蝦夷烏兜)
日本三大毒草の 1 つ。烏帽子のような紫の花が特徴。花言葉「騎士道」キンボウゲ科



ハッカ (薄荷)
水辺や湿地に生えハーブとしても有用で清涼感のある香りが特徴。花言葉「美德」シソ科



イヌホオズキ (犬酸漿)
小さな茄子のような実をつける。花言葉は食べられないことから「嘘つき」ナス科



タマゴタケ (卵茸)
毒キノコの多いテングタケの中にあって数少ない食菌。類似種にタマゴタケモドキという猛毒キノコが存在するので要注意。テングタケ科



ナカグロモリノカサ (中黒森笠)
食べられるキノコと誤同定した blog を見掛けたが毒キノコ。誤同定された食菌とは傘の裏が焦げ茶色なので区別が可能。ハラタケ科



チチタケ (乳茸)
笠の裏を傷つけるとお乳のような白液が垂れる。年変動が激しいキノコ。今年の出は少なかったように思う。ベニタケ科

【昆虫】

夏の昆虫は終わり掛けですが、懸命に子孫をのこそうとボロボロの蝶が舞っています。秋が近づきセンターの周りでは鳴く虫の声が賑やかな季節となりました。珍しい赤い目のイトトンボはいったい何処にいった？！



ミドリシジミ♂ (塘路湖北岸)
湿原に多いハンノキで育つ美しいセフィルス。8 月末なのに多くの個体を確認した。シジミチョウ科



ハネナガキリギリス (塘路湖畔)
雄は草叢や低木の中で「ギョニー」と鳴くが、その姿は中々見つけられない。キリギリス科



マンシュウイトトンボ (塘路湖畔)
緑と青が美しく珍しいイトトンボ。腹部第 8 節背面が青いことで他種と区別できる。イトトンボ科

◎森林の仕組みについて学びました。

8月30日(土)は、サルボ遊歩道にて森林の仕組みについて学ぶ観察会を実施しました。

冒頭、資料を配って森林の定義について基礎知識を学んだあと、資料「森林の遷移」「森林生態系の模式図」を見ながらサルボ遊歩道に登り始めました。階段を上がって右手にはミズナラ林が形成されており、同じような太さなのはなぜなのか、それぞれの樹齢がどの位なのかを皆で推理しました。萌芽更新の話と共にその萌芽力が森林では優位に立てる力であること、木の実を食べる動物や野鳥が発芽率を高める役割をしていることなど、大変、興味深い話を聴かせて頂きました。次にキノコたちが森林で果たしている役割について学んだあと、実際に遊歩道周辺でキノコを観察しました。タモギタケなどの食べられるキノコやドクツルタケなどの猛毒キノコを観察したあと、形の面白いキツネノエフデや、誤食が心配される毒キノコなどの解説を受け参加者たちは写真を撮ったり、熱心にメモを取って講師の話に耳を傾けました。

参加者 15 名



解説風景



キツネノエフデ

10月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

晩秋の湿原 野鳥観察会

[日 時] 10月18日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

ザリガニウォッチ2～ニホンザリガニ編～

[日 時] 10月5日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

秋の紅葉を見に行こう

[日 時] 10月19日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 8/15(4:27,18:27). 8/31(4:45,18:02).9/14(5:01,17:37)

～ 指導員のひとり言 ～

■ 今年の夏も所謂猛暑で、観察会では毎年見られる花も疎らでした。例年、今時期に湖上に咲くエゾベニヒツジグサも、心なしか少なく感じられる。

昨年の今頃と言えば、8月上旬に塘路湖に現れたヒグマの影響で、湖畔歩道が立入禁止となり、秋以降、当館の利用者数にも大きな影響が出ました。

8月中旬には羅臼岳でヒグマの人身事故が発生してしまい、尊い命が犠牲となってしまいました。自然との向き合い方を考えさせられる痛ましい事件でした。被害者のご冥福を心よりお祈り致します。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料